様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ５ 月 １４ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ０４３３１

研究課題名（和文）不定就労者の就労自立支援に向けたPBL型ソーシャルスキルトレーニングの開発と普及

研究課題名（英文）Development and Sprend of PBL Type Social Skills Training for Support of Homeless People's Working and Independence

研究代表者
藤本　学（Fujimoto, Manabu）

立命館大学・教育開発推進機構・教授

研究者番号：００４６１４６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：挑戦的萌芽研究で得た知見を基に，観劇と議論を通して問題場面における適応的なふるまいを考える双方向学習手法ILTAD(Interactive learning through theatergoing and discussions)を開発し，就労自立支援センターの在所者を対象とした就労適応スキル研修を行ってきた。検証の結果，低水準のスキルを平均的な水準に改善するリメディアル効果が確認されている。しかし，実施には高度な演劇技術を持つ舞台人を雇用する高額な費用が必要であった。そこで，研修の実施を容易にするため，出題編と解決編の9本と最終問題１本からなる映像教材の作成を行い，その効果検証を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
離職を繰り返す人にはソーシャルスキルが低い人が少なからず存在する。そのため，これまで就労自立センターでは，従来の行動論的アプローチによるトレーニングが行われてきたが，十分な効果を上げていなかった。そこで，挑戦的萌芽研究では，在所者に対する調査を基に，観劇と参加者同士の議論を繰り返す中で，これまでの自らの考え方や行動の何が問題であったのか，そして職場ではどのようにふるまうべきかについて考えてもらう認知論的トレーニングプログラムを開発している。本研究ではこのトレーニングプログラムの映像教材を作成した。これを用いることで，演劇の経験を必要とせず，安価で容易にトレーニングを実施することが可能になった。

研究成果の概要（英文）：The Interactive Learning Through Theatergoing and Discussions (ILTAD), an interactive learning method that considers adaptive behavior in problematic situations through theater and discussion, has been developed based on the findings obtained by the Grant-in-Aid for Challenging Exploratory Research. Employment-adaptation skills training using the method is continuously conducted for homeless people in the Employment Independence Support Center. Verification of ILTAD has revealed that there is a remedial effect that improves the participants' skills from a low to an average level. However, the method is expensive, including the high cost of hiring stage performers with advanced theater skills. Therefore, to easily implement the ILTAD, this study created a video of teaching material consisting of nine sets of questions and solutions and one final question and then verified its effects.

研究分野：対人社会心理学

キーワード：ホームレス　就労自立支援　就労適応スキル　映像教材　v-ILTAD　応用演劇　ディスカッション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

挑戦的萌芽研究(課題番号 26590138)では，ホームレスのソーシャルスキルの改善に向けた基礎研究に取り組んだ。それにより，ホームレスの就労適応には，職務遂行に関する「社交行動」と「機転行動」，および感情調整を要する「不当事態」と「不正事態」に関わるスキルが必要であることを明らかにした(なお，挑戦的萌芽研究の時点では社会活動スキルの「社交力」と「機転力」，理不尽受容スキルの「不当受容」と「不正受容」としていたが，調査方法や項目内容を踏まえ上記に修正した)。さらに，問題解決にこれらのスキルを必要とする職場トラブルを題材とした劇を見せて問題点や改善点について考え合ってもらうという応用演劇的技法を用い，観劇と討論を通した双方向学習(ILTAD)による就労適応スキルトレーニングプログラムを開発し，就労自立センターに在所中のホームレスの支援を継続的に行ってきた。効果検証により，低水準のスキルが平均水準に改善するリメディアル効果を確認している。ただし，就労適応スキルのうち職務遂行に関する「社交行動」と「機転性行動」，および感情調整を要する「不当事態」の 3 スキルを改善したが、「不正事態」には効果が及ばなかった。その原因は使用したシナリオの内容にあると考えられた。そのため，4 つすべてのスキルを改善しうるシナリオを作成する必要がある。さらに，応用演劇的技法によるトレーニングはシナリオの作成や即興演技など，何人ものファシリテータに高度な専門性を要求するため，実施が大きく制限されるという課題を抱えている。改善効果が明らかでも，広く実施できなければ実用的なトレーニングメソッドとは言えない。ソーシャルスキルの問題から就労自立に困難を示す多くの人々が，フォーラムシアターのリメディアル効果を享受するためには，実施が容易で手順が確立された標準的トレーニングメソッドを開発する必要がある。

2．研究の目的

一般に行われているコミュニケーションスキルトレーニングは、自然と体が動くという運動モデル(モータースキル)をベースにしたプログラムである。これに対し、挑戦的萌芽研究で開発した応用演劇的トレーニングは，問題状況の認識と適切な行動の選択という認知面を重視しているところに新奇性がある。本研究でも引き続き認知的トレーニングを軸とする。ただし，従来の役者による舞台演技は，職場における対人トラブルのシーンを，参加者であるホームレスの改善案に基づき何度も即興で演じて見せる必要があった。役者には即興で演じ変える高度な演劇スキルが求められる。そのため，1 回のトレーニングに要するコストは高くなり，トレーニングの実施は大きく制限されていた。これに代わるメソッドとして，PBL(Problem Based Learning)、すなわち参加者自らが問題の本質を見抜き、どのように対処すれば問題解決に足るかを話し合う方式がある。そこで，本研究は応用演劇を用いたホームレスの就労自立支援に関する挑戦的萌芽研究で得た成果とノウハウを活かし，PBL 式トレーニングメソッドの開発を目的とする。具体的な研究課題は以下の 3 点である。(1)社会情勢を踏まえ，「ホームレス」に加えて「ニアホームレス」に研究・支援対象を拡大する。(2)演劇の経験がなくてもトレーニングを実施できるように，職場における対人的な問題場面を収録した Blu-ray ディスクと手順書を作成する。(3)開発した PBL 型トレーニングと従来の実演型トレーニングを比較することにより，新メソッドの効果性について検証する。

3．研究の方法

職場で生じやすい多様なトラブルを収集し，ホームレスの主観ではなく一般社会において適応とみられる対処法を明らかにするために，社会人を対象とした調査を実施した。並行して，A 県の就労自立支援センターを主なフィールドに，従来の応用演劇型トレーニングを継続的に実施した。これらの取り組みで得られた知見を合わせ，PBL 型トレーニングの新メソッドの開発を行った。コロナの影響により，就労自立支援センターでの実施が困難になったことから，開発した PBL 型トレーニングの効果性の検証は，対面形式およびオンライン形式で大学生および社会人を対象に実施した。

4．研究成果

近年の社会・経済情勢により，就労自立支援センターの在所者には従来のホームレスだけでなく，ニアホームレスも増えている。そのため，研究対象を就労自立センターの在所者とすることによって，研究課題(1)は達成されている。

研究課題(2)に関して，はじめに，基礎調査を行い新シナリオの作成を試みた。適切なシナリオを作成するためのエビデンスを得るために，ホームレスを対象に、就労適応スキル自己評価質問票および感情調節尺度を用いた調査を実施した。その結果、適応的な再評価方略は 4 つすべてのスキルと正の関係性を，抑制方略は機転行動および不当事態と正の関係性をそれぞれ示した。また，就労中の社会人を対象に，職場で頻発する対人トラブルとその対処法に関する自由記述調査を実施した。これらの知見に基づき，4 つすべてまたはそのいくつかが関わるシナリオ 9 本(出題編・解決編)と，それらを通して身につけた力を試す最終問題 1 本(出題編のみ)の作成を劇作家

に依頼した(Table 1)。完成したシナリオについて，出題編の状況難易度と解決編の行動適切性を確認するために，就労中の社会人を対象に，作成したシナリオに関するインターネット調査を実施した。その結果，シナリオ 7 の行動適切性が 6 段階評価で 4 を下回ったことから，改訂を脚本家に求めた。以上のプロセスを経てシナリオを確定した。

Table 1. シナリオのタイトル，概要，状況困難度，適切行動度

	シナリオ		状況困難度		適切行動度	
No	タイトル	概要	*M*	*SD*	*M*	*SD*
1	上司から急な残業を頼まれて	残業を後輩が渋って感じ悪くなる	3.83	1.26	4.27	1.05
2	あとはまかせたといったのに	季節商品のディスプレイを裁量で配置	4.53	0.94	4.47	1.17
3	融通が利かないばっかりに	同僚が退社チェックに引っかかって連座	4.20	1.00	4.07	1.01
4	よかれと後輩を指導した結果	ビルの清掃員の新人がコミュ障	4.17	0.95	4.37	0.89
5	ホウレンソウをしてみても	輸入雑貨店、年に一度の展示会準備にて	4.77	1.10	4.80	0.76
6	クレーマーに対応してみた	スーパーマーケットでの客あしらい	4.33	0.88	4.40	0.86
7	職場の不正を目の当たりにして	タイムカード代理の横行	4.70	0.99	3.87	1.46
8	アットホームな職場の付き合い？	昼食やボーリング大会参加は会社の掟	4.67	0.99	4.03	1.38
9	おっちょこちょいは誰だ？	事務所の書類廃棄作業でミス続出	3.73	1.26	4.03	1.07
10	問題山積、そろいもそろって	職場問題の総決算。全員が主役！	4.53	0.97	――	――
		全体	4.35	1.08	4.26	1.11

次に，作成した新シナリオのうち，比較的状況難易度の低い 1 本を用い，ホームレスを対象とする応用演劇によるトレーニング(ILTAD)を実施した。効果性を検証するために，参加者を尺度開発に用いたデータの平均値を基準に，職務遂行行動の得点(社交行動と職務遂行の平均)が高い群(職 H)，職務遂行行動の得点は低いが感情調整事態の得点は高い群(職 H 感 L)，どちらも低い群(職 L 感 L)に三分した上で，2 要因混合計画(3 群×前後)の分散分析を行った結果，使用シナリオは「不当事態」を含む 4 つすべてのスキルが低水準から平均的な水準に引き上げる効果(リメディアル効果)を持つことが確認された(Table 2 上段)。

Table 2. 就労適応スキル4因子の群別および全体の平均値と変化量

		社交行動			機転行動			不当事態			不正事態		
群	*n*	事前	事後	変化	事前	事後	変化	事前	事後	変化	事前	事後	変化
ホームレス													
職H	20	4.78	5.05	0.27	4.58	4.66	0.09	4.21	4.24	0.02	3.71	3.64	-0.07
職L感H	13	3.75	3.54	-0.21	3.62	3.79	0.17	4.67	4.69	0.02	3.88	3.52	-0.37
職L感L	27	3.07	3.48	**0.41**	3.38	3.69	**0.31**	3.07	3.50	**0.43**	3.03	3.38	**0.35**
全体	60	3.79	4.02	0.23	3.83	4.03	**0.20**	3.80	4.00	0.20	3.44	3.50	0.05
大学生･社会人													
職H	28	4.44	4.42	-0.02	4.81	4.69	-0.13	3.33	3.62	0.29	3.15	3.21	0.06
職L感H	15	3.47	3.82	**0.35**	3.35	3.62	**0.27**	4.33	3.82	**-0.52**	4.30	3.78	**-0.52**
職L感L	17	3.32	3.90	**0.57**	3.16	3.34	0.18	3.13	3.22	0.09	2.66	2.87	0.21
全体	60	3.88	4.12	**0.24**	3.98	4.04	0.06	3.52	3.55	0.03	3.30	3.26	-0.04

注. 職は職務遂行行動（社交行動と機転行動），感は感情調整事態（不当事態と不正事態）の略。
太字は事前と事後の差が有意または有意傾向。

最後に、新シナリオ 10 本の出題編と解決編のシナリオを役者に演じてもらい，それを収録・編集することで映像教材を作成した(Figure 1)。併せて，映像教材を使用したトレーニングの実施手順書を作成した。この視覚教材を用いた研修は v-ILTAD と名付けられた。

研究課題(3)に関して，大学生及び社会人を対象に v-ILTAD を実施し，効果性の検証を行った。v-ILTAD の流れは次のとおりである。①15 分程度の出題編の映像をメモを取りながら観てもらう。②参加者全員で登場人物の言動や状況に潜む問題点を特定し，どのように解決するべきかについて話し合ってもらう。③主人公を中心とする登場人物が適応的な言動をすることでトラブルの発生を回避する解決編を観てもらい，自分たちの意見が反映されていたかどうか，より良い言動は他にないか，自分が主人公と同じ立場になったとき何に気を付けるべきかなどについて話し合ってもらう。④まとめとして研修の感想や気づきについてミニレポートを書いてもらう。以上の v-ILTAD について，2 つの大学と 1 つの企業において計 4 回のトレーニングを実施した。効果性を検証するため，2 要因混合計画(3 群×前後)の分散分析を行った結果，職務遂行に関する社交行動と機転行動に対する認識は改善された。一方，不当や不正な事態における感情調整に関

する認識は低下した(Table 2 下段)。また，ホームレスでは職 L 感 L で全スキルの改善が見られたのに対し，大学生・社会人では職 L 感 H で変化が見られた。社交行動については低い 2 群の双方で改善が見られたのはポジティブな結果であるが，職 L 感 L の機転行動を有意なレベルで改善できなかったこと，および職 L 感 H の感情調整に対する認識を低下させた点については，演劇と映像，ホームレスと大学生・社会人，研修期間(ホームレスは 2 日間，大学生・社会人は 1 日)，使用シナリオ(大学生・社会人はホームレスの 1 日目と同一のシナリオを使用)などの違いが考えられる。演劇と映像以外の部分は統制する予定であったが，新型コロナウイルスの影響により就労自立センターがすべての研修を停止したため，当初予定していたホームレスに対する 2 日間の研修が不可能になった。そのため，急遽対象者を変更したが，参加者の時間的制約などから 1 日研修にせざるを得なかった。新型コロナウイルスが収束し，ホームレスに対する研修が再開した際は，改めて要因の統制を行い，効果性を検証する予定である。

同様に，新型コロナウイルスの影響により，大学生対象の 2 回は対面で実施することができたが，後半の大学生対象 1 回と社会人対象 1 回は Zoom を用いたオンライン形式で実施せざるを得なかった。ただし，映像を見て話し合う v-ILTAD の方式は，オンライン研修でも問題なく実施可能であることが明らかになった。実施者と参加者が同一会場にいる必要がないという利点は，トレーニングの実施を容易にするという本研究の狙いに沿うものである。また，演者や脚本家の著作権の関係上，視覚学習教材をフリーで公開・配布することは不可能であった。そのため，科研費により得られた成果を還元するために，今後は要望に応じて全国のホームレスを対象とした v-ILTAD によるオンライン研修を行っていきたい。

Figure 1. シナリオ 1「上司から急な残業を頼まれて」出題編のワンシーン

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 古賀弥生	４．巻 7
２．論文標題 フォーラムシアターの応用によるホームレス就労自立支援の実践について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 演劇教育研究	６．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古賀弥生・藤本　学	４．巻 創刊号
２．論文標題 応用演劇によるホームレス就労自立支援の実践と成果	５．発行年 2018年
３．雑誌名 九州産業大学地域共創学会誌	６．最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 藤本学
２．発表標題 応用演劇的手法を用いたPBL型トレーニングILTADの第3期シナリオの効果検証　―ホームレスの就労適応力の更なる向上に向けて―
３．学会等名 日本社会心理学会第60回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤本　学・古賀弥生
２．発表標題 就労者の社会適応力が感情調節方略に及ぼす影響
３．学会等名 日本社会心理学会第５９回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤本学
２．発表標題 観劇と議論を通した双方向学習によるホームレスの社会適応スキルの改善
３．学会等名 日本社会心理学会第５８回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 古賀弥生・藤本学
２．発表標題 応用演劇の手法による就労自立支援プログラム開発の成果と課題
３．学会等名 日本アートマネジメント学会第１９回全国大会 奈良
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 古賀弥生	４．発行年 2020年
２．出版社 九州大学出版会	５．総ページ数 120
３．書名 芸術文化と地域づくり～アートで人とまちをしあわせに～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	古賀　弥生 (Koga Yayoi) (00585101)	九州産業大学・地域共創学部・教授 (37102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	具志堅　伸隆 (Gushiken Nobutaka) (10449910)	東亜大学・人間科学部・教授 (35503)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関